



Mapped to the Closest Address

“Turn off the house lights”, a midnight transmission

セゾン AIR パートナースHIPでは、アート・コレクティブ Mapped to the Closest Address と共同し、東京とベルリンでのアート活動をつなぐデジタル・レジデンシー、「ターン・オフ・ザ・ハウス・ライツ」を実施します。

Mapped to the Closest Address はこの2年間、庭師、樹木医、コミュニティガーデンのメンバー、農家、ワイン職人たちと対話を重ねてきました。昨年のプロジェクトでは、こうした記録をタコの足のようなリゾーム構造のデジタル・アーカイブとして構成しました。今回の「ターン・オフ・ザ・ハウス・ライツ」では音と語りをテーマにリサーチを行い、集めてきた物語や資料をサウンドインスタレーションの形で再編成します。ベルリンのコルディレラに沈む夕焼けは、真夜中の日本に転送され、どのような景色を映すのでしょうか。ぜひ、物語に耳を傾けながら、夜の時間と風景をお楽しみください。

Mapped to the Closest Address ワーク・イン・プログレス

ターン・オフ・ザ・ハウス・ライツ

a midnight transmission

2022年3月4日(金) 24時15分開始

オンライン参加・申込フォーム:

<https://forms.gle/JDit1U3N5P1DpdFb7>

ベルリン [コルディレラ・ダンス・スタジオ]、オンライン

アーティスト: アレックス・ヴィテリ 吉田駿太郎 カタリーナ・フェルナンデス 前野真榛 ヴィオレッタ

※2022年3月4日(金)17時、申込締切

「ターン・オフ・ザ・ハウス・ライツ」方法論に関するノート

太鼓をならし ケーナを吹いて

行列が行く 僕らの町へ

ほらほら 踊れ

今日は祭り アンデスの春

『アンデスの祭り』作詞 岩沢千早、原曲 ポリビア民謡、編曲 原由多加

Beating the drums and playing the kena

The procession goes to our town.

Come on, come on, come on, dance

Today is a festival, spring in the Andes.

Festival of the Andes / Lyrics: Chihaya

今回の「ターン・オフ・ザ・ハウス・ライツ」は、ベルリンにあるコルディラ・ダンス・スタジオにある庭からお届けします。参加者と庭の焚き火を囲んで夕日を眺めます。同時に、東京の真夜中にその音を届けます。それはまるで、愛する人と電話で話しながら散歩をするような、あるいは友人たちと雷雨に耳を傾けながら座るような、そんな時間になるでしょう。

3年ほど前に、わたしたちはコレクティブを結成しました。これまでに、さまざまな場所で植物を育て、現在2歳の猫「ヴィオレッタ」と一緒に作品を作り、共同作業をビデオ日記として記しました。サウンド・ランドスケープを作り、川の生態系破壊について話しました。ワインの木とのダンスを想像し、ナマケモノの動きの遅さをヒントにして振り付けを作りました。わたしたちは、他の種や地球上の生物との出会いを様々な装置を用いて記録し、これらの感覚的な出会いの上に作品が築かれゆつくりと発展していく様子を楽しみに眺めています。自然への畏怖、信仰、葛藤を解きほぐすために実践を積み重ねています。ぜひ一緒に耳を傾けてください。

Mapped to the Closest Address

*このコレクティブは、各自のパートナー同士の交流にも基づいています。

Mapped to the Closest Address

4匹の人間と1匹の猫ヴィオレッタからなる異種間ダンス・コレクティブ。振付の実践を通して、近代化および植民地主義へ向かう社会を問い直すと同時に、自然環境に対する人間の態度について疑問を投げかけ、人間中心的な視点を転換しようとしている。人間以外の生物に触れ、またその出会いを記録していく。

<https://www.mappedtotheclosestaddress.com/>

アレックス・ヴィテリ ドラマトウルク

1987年コロンビア生まれ。ベルリンとニューヨークを拠点に活動する南米のパフォーマー、研究者である。最近では主にビジュアルアートとパフォーマンスの境界で活動している。アンデス山脈のルコ・ピチンチャとコパケシのそばで育った。フェミニストの脱植民地主義活動家や研究者に触発され、アンデスの知識や人種の問題に関心を持ち研究している。

吉田駿太郎

ダンサー・振付家、コンテンポラリーダンス及びパフォーマンス研究者
1989年宮城県生まれ。2009年Noism2を退団後、フランスでコンテンポラリーダンスを学び、ポスト・コログラフィや参加型の振付実践を制作・研究する。2020年より、レモンガラスや鶏など他種族とのダンスを開始し、アーティストのユニ・ホン・シャープとコラボレーションしている。現在、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科およびベルリン芸術大学にPDとして在籍。東京藝術大学大学院音楽文化研究領域博士号(学術)取得修了。

カタリーナ・フェルナンデス 照明・音響デザイナー

1977年コロンビア生まれ。ベルリンを拠点にサブミナルな空間や、その場を包み込むようなインスタレーションを制作している。いくつかの作品ではテクニカルディレクターを務め、振付家、映画制作者、複合芸術家とともにコラボレーションしている。振付家ジュリアナ・ピケロ、音楽家ハンス・ウンシュテルン、アーティスト集団フェラス・パブリッシング・プラクティスと継続的にコラボレーションを続けている。

前野真椽 アーティスト・パフォーマー

1994年茨城県生まれ。ベルリン在住の日本人アーティスト、パフォーマー。地域社会や公共空間に介入する参加型アートを手がけ、近年は人間以外との共同作業も探求している。2019年にニューヨークのアートスタジオ De-Construct でアシスタントを務め、展覧会の企画運営やワークショップの開催をした。現在、ベルリン・ヴァイセンゼー芸術大学の修士課程空間戦略学科に在籍。2020年に東京藝術大学音楽環境創造科にて学士号を取得。

ヴィオレッタ 映像撮影・パフォーマー

2020年3月10日ブランデンブルク生まれの猫。2020年「Mapped to the Closest Address」に参加。このチームの人間は、他の種の視点とつながることを望み、自分たちの人間中心主義を脱臼させ、庭、森、湖の中の多くの世界を他の視点から探ろうとした。ヴィオレッタはビデオグラファーとして参加し、彼の素材は作品の根幹をなすものとなった。また、フランス、ナントの Honoluluレジデンスでは尻尾を使った振付を行い、ダンススコアブックに掲載された。